

JRECO 通信

No.31



一般財団法人 日本冷媒・環境保全機

引き続き、一般財団法人 日本冷媒・環境保全機構 (JRECO) として、会員の皆様を知っていただきたいこと等を『JRECO 通信』としてお届けします。

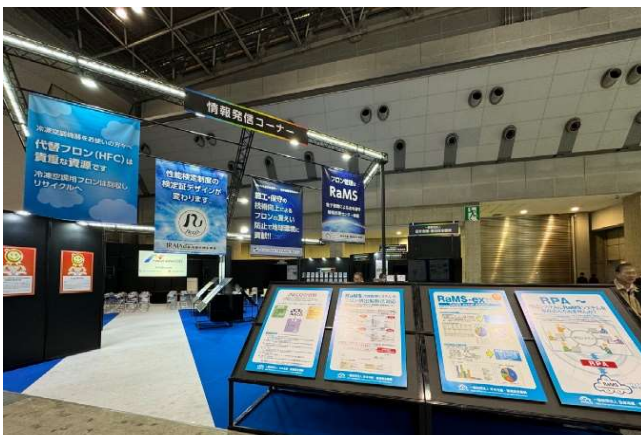
I. HVAC&R JAPAN 2024 (冷凍・空調・暖房 EXPO) に 出展、RaMS の展示・プレゼンを実施

鈴木 賢志

【1.概要】

HVAC&R JAPAN 2024 が2024年1月30日～2月2日の会期で開催された。新型コロナウイルスの影響で2020年度は中止となり、2022年度も開催はされたものの入場者数も伸び悩み盛り上がり欠けるものだった。その反動もあったせいか、今回は入場者数も期待通りの結果となり、初日から5,600名(先回の4日間合計を上回る)を超す来訪者を記録し、その後も日を追うごとに来訪者数は増え、4日間の会場全体の来訪者数は合計33,513名(事務局発表数)となる大盛況となりました。

(内訳) 1月30日	5,631名
1月31日	7,464名
2月1日	9,705名
2月2日	10,713名



<主催者ブース全景>

JRECO は日冷工主催者ブースの中の情報発信コーナーという位置づけで、日冷工・日設連と共に共同出展し、パネル展示、PCでのRaMS体験コーナーを用意し来訪者へ電子管理システムであるRaMSのメリットのアピールとフロン排出抑制法遵守の重要性につき情報発信致しました。

JRECO ブースも絶え間なく多数の方々の訪問を受け、RaMSにつき説明・ご質問を受けアンケートご回答、名刺を頂戴した方は約400名に上りました。

【2.展示内容】

- ① パネル9枚を利用してJRECOの事業紹介と活動内容を情報発信しました。



<JRECO 出展パネル>

- ② 今回は新たな試みとして、RaMS導入企業様に対する過去のインタビュー風景を編集し直し、65インチモニターからリピート映像として配信しました。また、配布用としてカタログスタンドにセット資料を用意し、必要なお客様にお渡しするとともに、RaMSに興味を持っていただいた方には実演コーナ

一にてRaMSを体験していただく流れを作るようにしました。



<RaMS 実演風景>

- ③ PC2 台を用いた RaMS の実演を通し、実際画面を見ながら操作体験いただくとともに機能説明を実施。実画面を見ながらの Q&A では一層ご理解を深めていただいたと思います。

体験を通してフロン排出抑制法への理解を深めるとともに、法に対応して関連帳票類を全て電子化するクラウドサービスとしての RaMS 機能の魅力を十分お伝え出来たと思います。

【3. ステージでの説明・プレゼン】

- ・併設ステージでは、専門の MC による JRECO 説明および情報システム部員による RaMS 説明会を計 8 回開催しました。



<併設ステージでのプレゼン風景1>



<併設ステージでのプレゼン風景2>

【4. 有明セントラルホールでのセミナー】

- ・1月31日に有明セントラルホールにて企画・調査部 野口部長が「フロン排出抑制法と電子管理ツール RaMS の活用」を講演しました。

・メディアでフロン問題について扱った事例を多数交えながら今後のフロン対策の徹底、法令遵守、漏えい量削減、回収率向上の必要性などを解説。併せて東京都での RaMS 導入実績を交えながら、操作画面等の紹介を実施しました。



<セミナープレゼン資料より>

今回はコロナ禍も収まり来訪者数も通常規模まで戻るところまでは想定できましたが、それを上回る規模の開催となり、復活という意味では嬉しい限りだと思います。今回フロン排出抑制法の周知と RaMS 普及に関しても多くの方に PR させていただき、その成果を今後につなげ、フロンに関する課題解決の活動を推進して参ります。

II. 江戸・東京の歴史を訪ね歩きませんか (小名木川周辺を辿る)

前回の JRECO 通信No.30 では堀部安兵衛の高田馬場決闘の道を寄稿された旗本 三千二百五十石取り 新御番組内三番組 青山玄蕃頭 (げんばのかみ) 様の後を受けてNo.29 を寄稿した僕、南町奉行所与力 石川乙次郎が小名木川周辺をご案内仕ります。

小名木川 (おなぎがわ) は東京都江東区の北部を東西に横断し、隅田川 (僕たちは当時、大川と呼んでいました) と旧中川を結ぶ運河です。江戸時代初期に神君家康公の命令で建設されたもので、全長約 5 km、途中で横十間川 (よこじっけんがわ) と大横川と交差します。小松橋と新扇橋の間には扇橋閘門 (こうもん) が設置されていて、閘門より東側は地盤沈下が激しくゼロメートル地帯の顕著な地域のため水位を 1m 下げています。



江戸城を居城に定めた神君家康公は、兵糧としての塩の確保のため行徳塩田に目を付けました。しかし行徳から日比谷入江の江戸湊までの江戸湾は浅瀬で船が座礁するため、大きく沖合を迂回していました。そこで小名木四郎兵衛に命じて、行徳までの運河を開削させたのが始まりです。

まずは、小名木川が始まる旧中川の上を走る首都高速 7 号小松川線小松川 JCT 近くの逆井の渡し跡を見学しましょう。逆井の渡しは元佐倉道の渡し場で堅川通りに通じるものです。護岸工事のため往時をしのぶことはできませんが、元佐倉道から堅川通りへ通じる地点は、ほぼ旧位置を推定できます。歌川広重 (1797~1858 年) の『名所江戸百景』 (1856~58 年) にも描かれています。



明治 12 年 (1879) ほぼ渡し跡と思われる位置に逆井橋が架けられました。亀戸・小松川両村による架橋で、その費用を補うために橋銭 (通行料金) が徴収されています。明治 27 年 (1894) に橋銭の徴収は終わり、明治 31 年 (1898) には東京府によって架け替えられました。昭和 43 年 (1968) に鉄橋に架け替えられています。撤去した木造の親柱が郷土資料室にあります。現在の逆井橋は平成 11 年 (1999) の架橋です。



次に旧中川沿いをレガッタ競技を行っているのを見ながら下流に 500m ほど行くと、中川船番所資料館に着くのでここを見学しましょう。船番所は本来、御船手奉行の向井左近衛将監様の管轄ですが、特別に許しを得て南町奉行所与力の僕がご案内します。

ここは江戸時代に小名木川の東端に設置された中川番所付近に建てられた資料館で、当時の水運や物流を紹介しています。江戸時代に設置されていた中川船番所を再現し、水運や江東区の歴史に関する資料を収集、保存及び展示することにより区民の歴史や文化に対する知的要求にこたえるために設置されました。

江戸時代、小名木川を通る船の取り締まりを行った中川番所跡の北側に建てられており、中川番所の一部を再現したジオラマや江戸からの水運の歴史、郷土の歴史文化紹介展示室、江戸和竿の展示や特別展・企画展などを

拝見できるほか、川の駅関連イベント・ワークショップ・講座などが開催されています。開館時間 9:30~17:00 料金:200円です。

見学を終え、小名木川沿いに 200mほど行くと宝塔寺 塩なめ地蔵があります。宝塔寺は真言宗で、稲荷山小名院と号します。境内に安置されている塩なめ地蔵は、もとは、小名木川沿いにあったものを昭和初期に移したものです。

江戸時代に、小名木川や行徳道を通る商人たちが、この地蔵の前で休憩し、商売繁盛を願って塩を供えたのが由来と伝えられています。また仏前の塩をもらってイボにぬると治るともいわれ、別名「イボ取り地蔵」とも呼ばれていました。



次に小名木川に戻り、東京都道 476 号砂町吾嬭町線（みなみすなまちあずままちせん）との交差点に大島稲荷神社がありますので、散歩の安全祈願のお参りをしましょう。この神社は慶安年間（1648~1652年）創建。由来同地海辺小名木川近く数々の津波により耕地荒廃甚しきため、村人相謀り京都山城の國伏見稲荷大社ご分霊奉遷し産土神として奉りました。災除衣食住出世開運あらゆる産業の大祖神として、ご神徳光大輝き崇敬拝厚受け大島神社と呼んでおるそうです。



参拝を終え、ここで小名木川沿いを外れ、都道 476 号砂町吾嬭町線を北上し（ちなみに、南下するとかの有名な砂町商店街があります）、400mほど行くと首都高速 7 号小松川線にぶつかりますので高架下を左に 200mほどで豎川（たてかわ）専用橋跡に着きます。豎川は、東京都墨田区及び江東区を流れる人工河川です。江戸城に向かって縦（東西）に流れることからこの名称となりました。ここは只の石碑だけなのでパスしても構いません。



次に首都高速 7 号小松川線高架下を西に 500mほど行くと横十間川にぶつかりますので川沿いに北に向かいます。400mほどで東京都水道局亀戸給水所近くにある亀戸銭座跡に着きます。写真のモニュメントは、寛文 8 年（1668）に亀戸銭座で造られた「寛永通宝」をモデルに作成したものです。



レリーフには、「銭座絵巻」享保 13 年（1728）より銭座で行われていた銅貨製造工程のうち、平研（銅貨の表面を磨く）作業をしている図（日本銀行貨幣博物館所蔵）の絵を参考にしたものが描かれています。江戸時代に銅銭が本格的に鑄造されたのは、寛永 13 年（1636）に始まります。そのため、幕末までに造られた銅銭は全て寛永通宝と称し、「寛永通宝」の文字が打ち出されています。

寛文 3 年（1663）から天和 3 年（1683）まで、亀戸 2 丁目の住宅・都市整備公団団地のある付近で、寛永通宝銭が造られ、「亀戸銭座」と称しました。寛永通宝の裏面は無印のものが多いのですが、造られた場所の文字などが入ることがあり、この時造られた銅銭には「文」の文字が入っており、「背文銭」といわれています。

さらに横十間川沿いに北に向かい、菅原道真公をお祀りする亀戸天神にも参拝しましょう。当社は、寛文 2 年（1662）10 月 25 日に太宰府の社にならい、社殿、回廊、心字池、太鼓橋などを営み、以来約 360 年後の今日まで東国天満宮の宗社として崇敬されています。心字池に架かる三つの赤い橋はそれぞれ過



去・現在・未来を表しています。橋を渡ることで心身を清め、御神前にお進みしましょう。

参拝を終え、横十間川を南に戻り首都高速小松川線の下を潜ると都立猿江恩賜公園に着きます。昭和7年(1932)の開園と古く、昔から貴重な緑地として周辺住民に知られていました。

元々この地は、江戸時代から続く徳川幕府による貯木場でした。その後、明治政府御用達の貯木場になり、その後一般の人々に開かれた公園へと、用途が変更されました。公園の北側の地区は、戦後しばらく貯木場として使用されていましたが、これも江東区潮見に移転され、昭和56年(1981)に追加開園されました。この公園を北側から入り、東京都道・千葉県道50号東京市川線を越え、南側から出ます。横十間川に沿い南側に100mほど行くと小名木川と交差します。

十字を描く川の交差点には、ユニークなX型の橋・小名木川クローバー橋が架かっています。架橋は平成6年(1994)です。是非とも皆さんここを訪れてください。伴侶・恋人・愛人と来ると幸せになるそうです。僕は今度、きぬさんと来たいと思います(きぬさんとは浅田次郎著流人道中記の石川乙次郎の幼な妻の名前です)。

小名木川を西に500mほど行くと大横川と交差するところの猿江側に、猿江船改番所が元禄から享保期(1688~1736年)頃に設置されました。

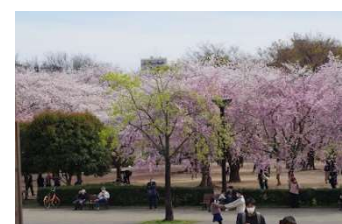
小名木川は江戸への物資輸送の重要な交通路であったため、とくに江戸の町を守る必要上、江戸時代の初め、万年橋北岸に通船改めの番所が置かれました。その後、中川口へ移転し、中川船番所として利根川水系や房総方面と江戸の間を航行する川船を取り締まっていました。猿江船改番所は中川番所とは別に、川船行政を担当する川船改役の出先機関として設置されたものです。

幕府や諸藩の荷物を運搬し、江戸へ出入りする船には川船改役によって極印が打たれ、年貢・役銀が課せられていました。そのため新たに船を造ったり、売買によって持ち主が替わった場合などは届け出が義務づけられていました。猿江船改番所の仕事は船稼ぎを統制することであり、こうした年貢・役銀を徴収したり、川船年貢手形や極印の検査を行っていました。この他江戸市中では、浅草橋場(台東区)に同様の番所が設置されていました。

ここで大横川に沿い南側に200mほど行くと都立木場公園があります。地名としては、木場、平野および三好にまがり、総面積は24.2haで、当地近辺においては、貴重な緑豊かな場所です。

元々は、地名の由来通り、近辺は材木業関連の倉庫や貯木場が多く、新しい埋立地が完成して、今までの貯木場としての機能が新木場へ移転したため、江東区の防災都市計画(住宅などが密集していることによる火災や地震被害を食い止めるため)の一環として、当地に公園を作りました。この公園を北側から入り300mほど行くと東京都道475号永代葛西橋線でそこを越えても未だ木場公園は続きます。更に300mで南側の出入り口です。大変広い公園です。

公園を出て100mほど南に木場須崎弁天社があります。桂昌院(徳川五大將軍綱吉公の生母)が崇敬した江戸城中紅葉山の弁財天を、護持院(現護国寺)隆力の進言により元禄13年(1700)当地に遷座して創建、当地が海岸に浮かぶ弁財天であったことから、文人墨客の参詣を集めていたといわれています。明治5年(1872)村社に列格、昭和43年(1968)に現社殿を造営しています。また、寛政3年(1791)に押し寄せた津波により、当地周辺は多数の死者行方不明者を出し、江戸幕府は当地を東



北、平久橋の袂を西南とした一帯を買い上げ、居住禁止区域とした際の波除碑（津波警告の碑）が残されており、東京都指定文化財となっています。

津波の怖さを感じた後、都道10号東京浦安線を西に1kmほどひたすら歩くと隅田川に突き当たります。ここに永代公園があります。公園は北は永代橋、南は大島川水門まで伸び、南北に細長く夜景・デートスポットらしいです。主に永代橋、中央大橋、大川端リバーシティ21などの夜景を見ることができますが、ベンチが少なく、夜間の園内はやや暗いため、南隣の越中島公園ほど有名ではありません。



永代橋付近の地下を東京メトロ東西線が通過しており、公園内には換気塔（永代橋換気塔）が設けられています。堤防の内陸側にも各種遊具などがありますが、昼間でも暗く閑散としています。都心に近い割には利用客が少なく、静かに過ごせる公園なので、ジョギングや散歩を楽しむ人が多いということです。



公園を出て、隅田川沿いに北に100m行くと永代橋碑があります。（右の写真）江戸期の永代橋はこの地にありましたが、明治30年（1897）に鉄橋に姿を変え、現在の地に移りました。

最初の訪問地逆井の渡し跡は江戸川区でしたが旧中川を渡ってからここまでは江東区で、約20km歩いてきました。疲れていますがもうひと踏ん張り、永代橋を渡り、中央区に入ります。川沿いに南側300mほど行くと最後の見学地、江戸湊発祥（えどみなとはっしょう）の地の記念碑があります。



亀島川にかかる南高橋の南50mあたりから「隅田川テラス」が始まっています。その始端に金色のイカリをかたどった記念碑が建っています。

ここは亀島川が隅田川と合流する地点。江戸時代にはここが隅田川の河口であり、そこに江戸湊が開かれました。

江戸の町の南側は大規模な埋立てによって、江戸時代初期とは地形が全く変わってしまったため当時の姿は想像しにくいですが、この辺りはかつて霊岸島の「将監河岸」と呼ばれ、対岸は「鉄砲洲」で、船の出入りの非常に多い場所だったのです。

昭和初期には東京湾汽船（東海汽船の前身）が伊豆諸島や房総半島との間に航路を開き、この地を拠点に定期運航しました。

この地点から100m南東に、「霊岸島検潮所」があります。明治6年（1873）に現在の位置から36m上流側に作られた東京湾の水面の高さを計測する施設で、このデータを基に海拔ゼロメートルが決められ、日本地図に反映されました。



以上が小名木川周辺巡りでした。今回も浅田次郎先生の『流人道中記』を右に紹介して反省会の場所に移動します。では皆さん、またね～。

Ⅲ. 作井正人の米国駐在記

すこし昔の話にはなりますが、私が2003年～2006年の3年間、カリフォルニア州のIrvine市で過ごして感じたことを連載します。アメリカ文化とアメリカ人気質を理解して頂けるきっかけになって頂ければと思います。

<ネゴシエーション>

アメリカ映画やドラマを見ていると、犯人と刑事との間でネゴ（交渉）している場面をよく見かける。つまり刑事が犯人に対して情報を出せば罪を見逃してやる。それも刑事の上長などを通さずに本人の裁量で行っている。日本で育った私は、それは単にドラマの中だけのことだろうと思っていた。実際に刑事と犯人の間にネゴがあるかは確認したわけではないが、しかしアメリカで経験を重ねると、これはあり得ることと思うようになった。①担当者が個人の裁量で決定する、上長に確かめないで即断となる。②担当者の裁量が人によって異なる。③裁量内容に間違いがある。

以前にも記したことだが、あるとき、領事館から注意喚起メールがきた。それによると、「入国審査のときに、係官によっては独自の判断でビザが無効になったことがある。係官と揉めたらそこで議論するのは止めて、上長を呼んでもらうように」と。私も一度アメリカ再入国の時に就労ビザ（E-2）取得であるのにもかかわらず、係官が入国カードに観光用の3ヶ月ビザ（I-94）と記入してしまった。その時はすぐに指摘をしたので、議論にもならずデータを打ち直してくれて大事にはならなかった。

また、亜弥が運転免許試験に合格して免許証を申請したときにも、窓口の係員がSSNを持っていない亜弥には免許証は発行できない（これは係員の間違い）と主張した。その時はすかさず隣の窓口で申請したら笑顔で受理してくれた。

そして、私が最初にしたネゴは、一年間住んでいた家から大家が販売することで出されたときのことであった。次の家に、引っ越しをした後に会社にセキュリティ会社から電話があった。家のセキュリティは前任者の勧めもあって、防犯契約を彼から引き継いでいた。何でも彼女が言うには、「あなたは5年契約している、途中で契約を止めたのだから1,200ドル支払うように」だった。そうか、そんな契約になっていたのか、よく読まなかったと反省、しかし1,200ドルはあまりにも高額だ。そこで、ダメ元で彼女に「今回の件は私ではなく大家の都合、私もあなたも同じ被害者だから、それぞれ折半して600ドルにしないか」と言ってみた。なんと、彼女は即断で「OK」だった。日本だったらあり得ない、しかし、これがアメリカなのだ！。

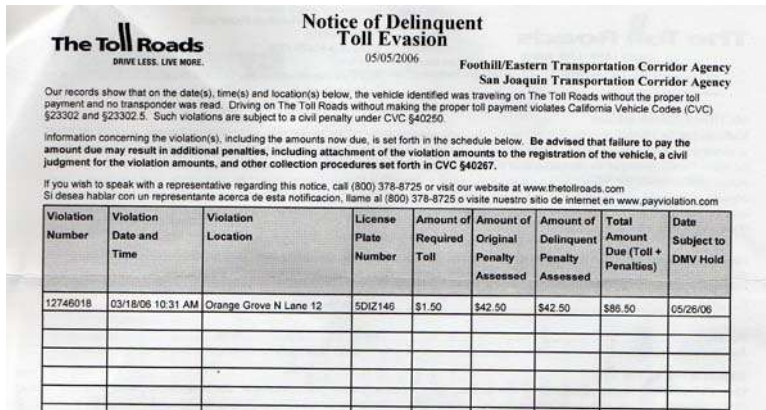


大家が転売するので追い出された、最初に住んでいた家

<有料道路 (Toll) 違反>

カリフォルニアでは高速道路は無料（Free Way）なので有料道路は少ない。山の上を走る景観の良い道などのごく僅かが有料道路になっている。日本のようなETCゲートもあるが、私は滅多に使わないのでそんな装置は車に付けていなかった。3月の春休みに香菜子が友人と遊びに来ていたので、アウトレットに連れて行くことになり、133号線のTollroadを利用した。これだとFreewayで行くよりも近道で料金はたったの1.5ドルだった。Freewayから分岐して133号に入ったのだが、間違えて自動課金のゲートレーンに入ってしまった。時既に遅し、料金所レーンには戻れなかった。やむなく、そのまま走行していると警告表示が現れた。それには「料金を払っていない車は、カメラでプレートナンバーを撮影しているので、後ほど罰金を請求する」とあった。

罰金通知はいつ来るのかと気にしていたが、全然こなかった。なんだ、やはりアメリカはいい加減だと思っていた。実は、私の免許証の住所が会社のアドレスにしていたので、私の事務机に届いていた郵便物に紛れ込んでいたのだ。おそらく、広告だと思って何回か捨てていたのだろう。5月の末に開封してみても初めて罰金通知だと分かった。やはり通知が来ていたんだ、内容を確認すると2、3回通知があったようだ。それには「3月16日 10:31AMにて Orange Grove N Lane12にて不払い、有料道路代1.5ドル、罰金42.5ドル、延滞金が42.5ドル、合計86.5ドル：2006年5月26日」とあった。



5月26日付けの罰金請求書

観念して、小切手に86.5ドルと書いて封筒に入れようとしていた。ちょうど、Edが私の部屋に入ってきたので、苦笑いをしながらTollroad違反が来たよと罰金と遅延金86.5ドルの小切手を見せた。Edには3月にTollroadのレーンを間違えたことを話していたので、話は知っていた。Edが「Sakuiさん、そんな大金払ったらダメだよ！電話を掛けて、故意でないこと、住所変更して通知が来なかったことと言ってネゴしたら」とアドバイスしてくれた。

罰金請求書には、もしもこの件で担当と直接話したいことがあるならば電話番号が記してある。さっそく、Edのアドバイスにしたがって、担当者に電話をして料金不払いは故意ではなかったこと、住所変更したの通知が届くのが遅れたと交渉した。なんと、ネゴシエーションは成功し86.5ドルが29.5ドルに修正してくれた。私は調子に乗って、気付いた時にはレーンが変更できなかったのに1.5ドルにしてくれないかと言ったら、さすがに「調子に乗るな」と言われ、それはダメだった。そう言えば、映画の中では「No Negotiation!」というセリフがあるのを思い出した。



支払い完了後に29.5ドルの領収書が送られてきた

<テーブル購入>

ハロウィーンに続き、11月最終木曜日の **Thanks giving day** と年末に向けアメリカは活気づき、**Thanksgiving** から **New Year** までを **Holiday Season** と呼ぶ。

買い物をするには翌日の金曜日には特売をしている店も多くあり、早起きして店の前に並ぶのが、こちらの人たちの恒例行事のようだった。**Ramon** は4時起き、5時から並んで息子のためスノーボードを170ドルも安く買ったと、私の部屋の中まで聞こえる大声で自慢していた。**Thanks giving day** の木曜日はどの店も休業していて、まるで昔の日本の元旦のようだった。この4日間の休みは故郷に帰って家族で過ごし、家族みんなで七面鳥を焼いて食べる。したがって、飛行場はどこも帰省ラッシュ。ちょうど、日本のお盆の光景と同じだ。連休の初めは、飛行場のいたるところで、年老いた両親が息子夫婦と孫たちを笑顔で出迎え、連休の終わりでは別れを惜んでいるシーンを見かける。

休み明けの月曜日に会社での最初の会話は、「七面鳥を食べた？」と聞かれる。「食べていないよ」と答えると、ちょっと複雑な表情になる。そして、「何で食べないの？」と聞かれることもある。自分の家の七面鳥の出来具合などが話題。日本の正月のおせち、お雑煮と同じようなものだろう。

我が家での買い物は **Dining table** だった。前任者から安く譲り受けたテーブルの足が壊れ、使えなくなってしまった。翌日の金曜日に家具屋を3軒まわった。特売の500ドル位のテーブル、やはり見劣りがする。見栄えの良いテーブルに目が移ってしまった。椅子は別売でそれなりの価格。結局、**Thanks giving day** の翌日は安く買えると思ったが、結構な出費となってしまった。アメリカに来てから、車の次に高い買い物をしたことになった。

帰国時は持っている家具は全て次の駐在員にあげてきたけど、このテーブルだけは高価で購入したばかりだったので差し上げるわけにはゆかず、日本に送った。しかし悲しいかな日本の家屋事情、このテーブルは使われることもなく、狭い6畳間を独り占めで鎮座しているだけのものになっている。



<ロナルド・レーガン元大統領国葬>

Wikipediaによると、「2004年6月5日に元アメリカ合衆国大統領ロナルド・レーガンが逝去した。アルツハイマー病による闘病生活を10年近く送っていた。国葬は11日まで7日間続いた」とある。

日本以外の国では国旗がいたる場所に掲揚されているが、その中でもアメリカは特に国旗掲揚が他の国より多いと思う。6月6日にスーパーにある星条旗が半旗になっていることに気付き、帰って家でテレビを見てレーガン元大統領が他界されたことを知った。



飛行機待ちの客達が空港のテレビに食い入るように見ている（6月9日、ワシントンでの国民とのお別れの模様）

私の記憶にある国葬は吉田茂元総理大臣の時だった、あの時は、午後から休校なり日の丸が半旗だったことを思い出した。半旗の意味を知ったのはその時が初めてだった。吉田元首相の国葬は1日だけのことだったと思うが、レーガン元大統領の国葬は1週間続いた。



テレビ画面と翌6月10日の翌6月10日のUSA TODAYの一面、レーガン夫人が棺へのお別れの場面

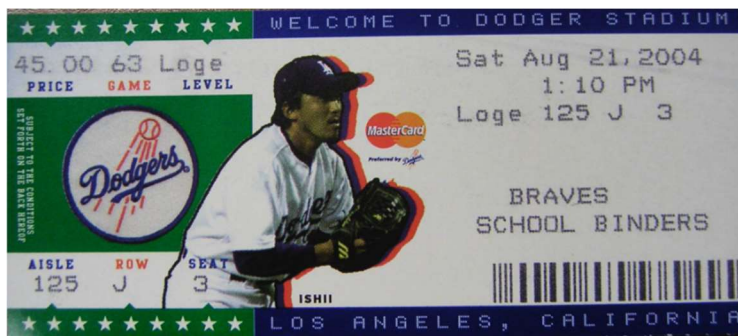
テレビで米語で国葬は、**State Funeral** と表現すると知った。「USA TODAY」という新聞は日本ではあまり知られていないが、米国ではポピュラーな全国紙である。

USA トゥデイは、1982年に創刊されたアメリカ合衆国の全米向け日刊一般新聞。発行元はガネット・カンパニー。米国における発行部数は近年まで首位であり、全米50州すべてで販売されている、“National newspaper”の一つである。 ウィキペディア

<Dodgers 石井 一久投手>

亜弥の Irvine High School の入学手続きも一段落した頃 Dodgers の試合観戦をすることにした。本当は、家内も亜弥も近所の Anaheim 球場でのイチローの試合を見たがってはいたが、予約が一杯で取れなかった。やむなく Dodgers の石井投手が登板する試合を申し込んだがこれも一般購入では売り切れだった。Richard が Dodgers Fun Club に入っているのを思い出して、彼に頼んで何とか家族3人分の予約が取れた。しかし、3人並ぶチケットはなく家内と亜弥は日本いうバックネット（アメリカはネットはない）、私は一塁側内野で入口も別だった。まだ、アメリカに来て一月もたっていない、別々で大丈夫だろうか。

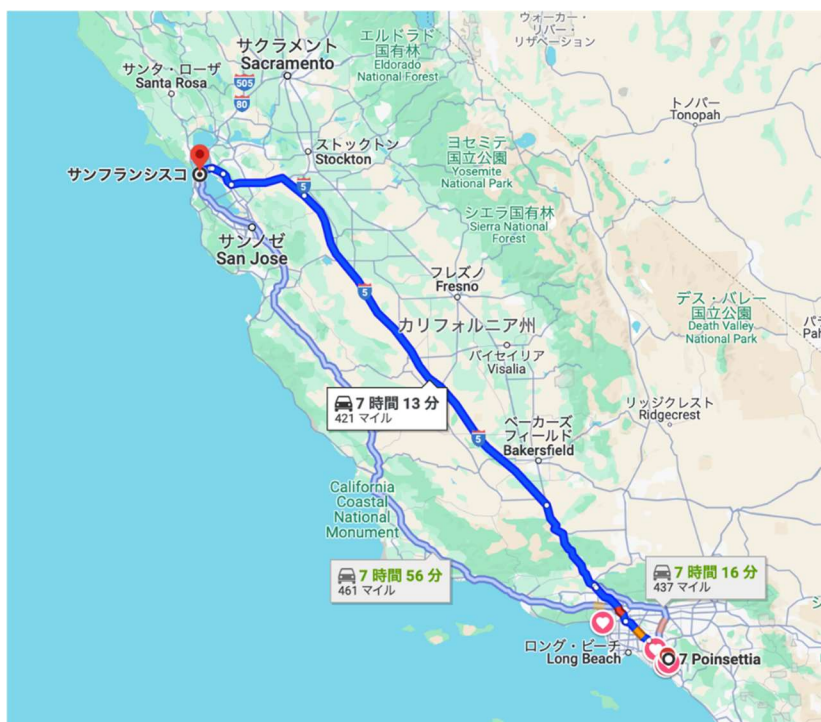
そんな時、22日に弟が IEEE 学会へ出張で San Francisco へ来ると連絡があった。22日は試合観戦の翌日だったが、試合観戦後に弟に会いに San Francisco までドライブすることにした。



以前にも Richard と Jose と来たが、巨大な駐車場へは長蛇の列

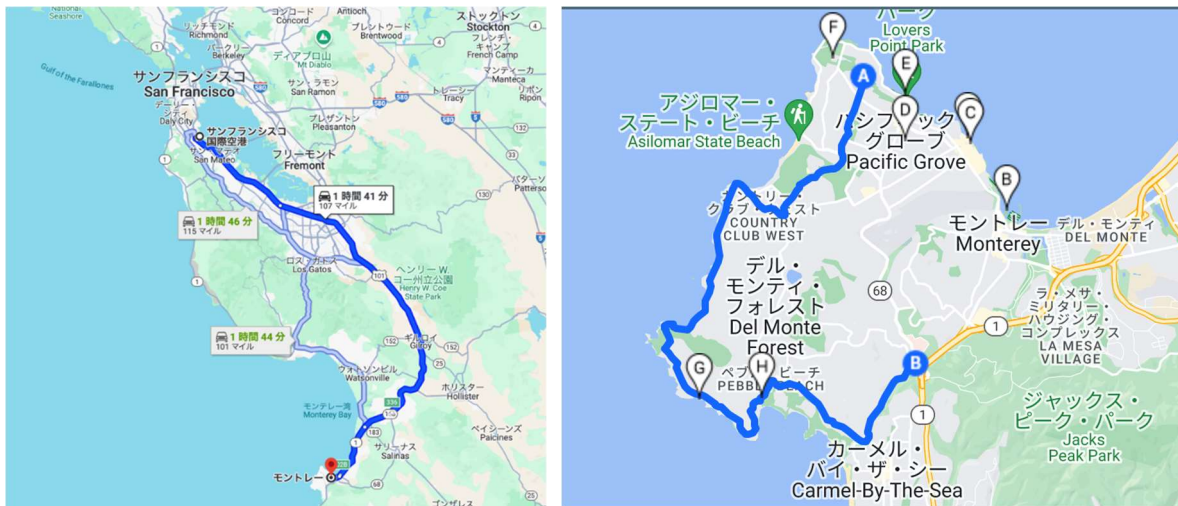
<San Francisco へ>

試合後二人とは入場する前に待ち合わせを決めた場所で落ち合った、試合中は特になにも問題がなかったようだ。早々に駐車場を抜け出し近くの 5 号線を北上して San Francisco へ向かった。



San Francisco は以前に出張で何度も来た好きな街、久しぶりだったので楽しみだった。San Francisco までは670Kmほどあり、ちょうど東京から倉敷までの距離に相当する。

Los Angeles の市内を抜けると、草木もない禿げ山が1時間ほど続く。車線も片道2車線と狭くなり、走行している車もめっきり少なくなる。この山岳地帯を越えると、ベイエリアまで平地地帯が続く。景色は単調で何時間走っても変わらない。規制速度は70マイルとなっているが、周りの車は80マイル以上で飛ばしている。長距離を走行するには、設定速度をキープしてくれる Auto Drive はアクセルから足を離せるので便利だった。Auto Drive モードにすると上り坂だとアクセルペダルが自動的にしたに下がり、下り坂ではその逆となる、ブレーキやアクセル操作をすると解除となる便利なものだった。日本でも高級車には付いているらしいが、日本の道路事情を考えるとあまり使う機会はないだろう。なんとか、その日のうちにホテルに無事辿り着いた。



翌朝、San Francisco 空港で弟を迎え、モンテレーからカーメルに行くことにしていた。彼は Stanford 大学の研究室に3年間社費留学していたので、この辺には詳しくモンテレーから17 Mile Drive (有料観光道) 経由有名なペブル・ビーチゴルフ場からカーメルのコースを事前に考えてくれていた。



モンテレーの街、軽井沢のような上品なお店がたくさんある

このモンテレー市はクリント・イーストウッドが以前市長を務めていたことでも有名な街で、芸術家たちが集まり、モールも日本の軽井沢の雰囲気は彷彿される。観光客たちは品がよく、それなりの人たちだと感じる。

17 Mile Drive はモンテレー半島の海岸線をまわる風光明媚なドライブルートで、その名の通り全長が17マイル(27km)の私道として整備されているので乗用車は有料だった。途中には、超高級住宅・別荘があり、有名なペブル・ビーチゴルフコースの中を走れる。海岸線がきれいで、ラッコも多く見かける。道のすぐ脇は海岸で反対

側がグリーンとなっているのでグリーンから海まで数メートルというコースもある。ショップにも立ち寄ると、ここでしか売っていないゴルフ用品などを販売していた。ゴルフが好きな人には垂涎的なる Goods がたくさんあった。



モンテレーの Old Fisherman's wharf

Fisherman's wharf の海辺では Sea Lion (トド) が観光客からエサをねだって鳴いていた。Sea Lion の横ではラッコがお腹の上で貝やウニを割って食べていた。San Francisco の Fisherman's wharf と比べると規模は小さいが情緒があり品格を感じる。Whale Watching の船もここから出ているようだ。ここで、Sea food の夕食、アメリカの食事は量が多い。弟と二人でワインを二本飲んだ。弟とは久しぶりの再会だったので、ホテルに帰って2時まで飲み明かした。翌朝、San Francisco まで送り、我々はもう一日 San Francisco 観光をすることにした。





Down Town が見えてきた



Fisherman's wharf

久しぶりの San Francisco だったが、Fisherman's wharf の周りの雰囲気が以前好きだった頃から比べると品が悪くなったと感じた。つまり、観光客の客層が全く変わってしまったからだろう。現在の San Francisco は不法移民が溢れ、さらに最悪になっているようだ。



Golden Gate Bridge



有名なアルカトラズ島刑務所 (アルカボネが収容 : 現在は観光地)

出発の前日の金曜日に Ed、Richard と Ramon から San Francisco は寒いよと言われていた。私がどこどこへ行くと話題にすると、すぐに集まってきては「ああだ、こうだ」とアドバイスをしてくれる、いい奴らだった。確かに、霧の San Francisco だけあって日が隠れると寒かった。半日の観光バスツアーに申し込んで一日が終わった。

さて、夕食はやはり Sea food、ここは生牡蠣が有名なので久しぶりに堪能した。亜弥も牡蠣が大好きだった。さて、事件は翌朝起こった。私はホテルに帰ってすぐに朝までぐっすり寝ていたので、夜中に何あったのか全く知らなかった。ところが、朝、目覚めると家内と亜弥の機嫌がすごく悪い。二人とも牡蠣にあたって一睡もできなかったそうだ。そう言えば、昨日口にしたとき、チョット牡蠣が緩かったように思っていた。「二人が何度もトイレで苦しんでいたのに、あなたはイビキをかいていて全然起きないのだから！」と言われてしまった。そして、二人の怒りの鋒先はどれも私だけが“何ともなかった”こともあったのかもしれない。

Invien に戻る車中では、亜弥は後部座席でぐったりと横になっていた。可哀想に亜弥は、大好きだった牡蠣があれ以来うけ付けなくなってしまったそうだ。

To be continue 次号へ続く

お楽しみいただけましたでしょうか？

JRECO 通信は不定期刊行ではありますが、次回もご期待願います。

JRECO 通信のバックナンバーはホームページに掲載中

https://www.jreco.or.jp/jreco_news.html